

米国株急落と今後の相場見通し

ポイント① NYダウが一時1,000米ドル安

4月22日の米国株式市場で、ダウ工業株30種平均が一時1,000米ドルを超える下げ幅となり、終値ベースの前日比下落率が2020年10月以来の大きさとなるなど、急落しました。インフレ抑制に向け、FRB（米連邦準備制度理事会）が想定以上のペースで利上げを加速させることへの警戒感が株価急落の背景にあるとみられます（右上図）。

FF金利先物から予測される利上げ回数は、年内残り6回のFOMC（米連邦公開市場委員会）で9回分の利上げ（1回分が0.25%で合計2.25%）を100%織り込んだほか、10回分の利上げ（同2.50%）も約75%の確率で織り込みました（4月22日時点、同図）。つまり、年内6回のFOMCのうちの3会合で0.5%の利上げの実施が確実視されています。

ポイント② 現時点で業績拡大シナリオは不変

一方、米企業業績は今後も拡大すると想定されており、2021年末比で2024年末のS&P500種株価指数のEPSは約40%増加するとみられています（右下図）。株価は長期的に業績に収れんする傾向があることを踏まえると、業績拡大の継続は米国株の先行きを見る上で支援材料です（同図）。米実質金利とPER（株価収益率）の観点からみて、米国株の割高感が解消されたことも見逃せません。4月22日時点の米実質金利は-0.09%、同株価指数の12ヵ月先予想PERは18.1倍となっており、2015年以降の米実質金利と同PERを線形回帰した水準（18.5倍）を下回っています。金融引き締めへの警戒感が高まる中、業績面なども加味し、長期的な視点で冷静に投資判断を行なうことが重要といえます。

シニア・ストラテジスト 石黒英之

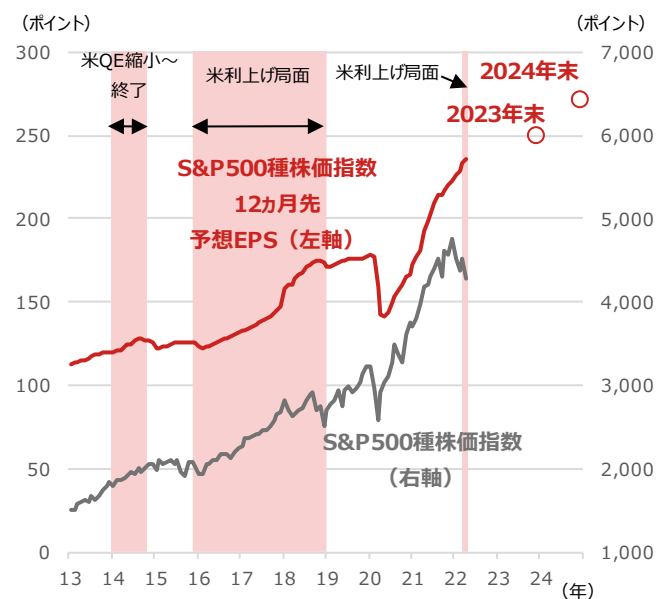


市場が予測するFRBの利上げ回数とS&P500種株価指数



期間：2021年7月1日～2022年4月22日、日次
・米FF（フェデラルファンド）金利先物から予測される利上げ回数、1回は0.25%（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

S&P500種株価指数と同予想EPS（1株当たり利益）



期間：2013年1月末～2022年4月22日、月次
・予想EPSの実線は12ヵ月先予想EPS
・○印は2023年末、2024年末時点の予想EPS（Bloomberg予想、2022年4月22日時点）
（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

*当資料は、一部個人の見解を含み、会社としての統一見解ではないものもあります。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全体の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しします投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。